

## 「H26年度 教育実習報告会が行われました」

### — 心理福祉学科 —



人間福祉学部心理福祉学科の教職課程の学生6名が、平成26年12月1日(月)5時限(16:20~17:50)および6時限(18:00~19:30)に、「教育実習報告会」を実施いたしました。

この報告会の主な目的は、①「実習を振り返り、自らの今後の課題を確認すること」、②「次年度の実習に行く学生が、教育実習・特別支援教育実習の準備をしていくため」、③「教育実習・特別支援教育実習の学びの成果、成長を教職員へ伝えること」の3点でした。そして、発表者の学生は、以下の4つの観点を踏まえながら、報告しました。

1. 学校現場の実態について(学び、気づき)
2. 教育現場で求められる力について
3. 自らの力量について振り返る(持ち味、特徴、克服すべき課題)
4. 自らの教職への思いを確認する



←学生が作成した教材

一人当たり、質疑応答を含めて20分という短い時間でしたが、6名とも、これまでに学んできた様々な力をいかんなく発揮し、それぞれの学生の個性が出る報告会となりました。

中学校の教育実習へ行ったある学生は、実際に研究授業で使ったパワーポイントを見せながら、「授業」の形がみえるような発表をしてくれました。また、ユニークなキャラクターが売りの学生は、冗談を交えて会場を沸かせながら、楽しい報告をしてくれました。

次年度に実習へ行く予定の学生からも質問が多数出て、実りのある報告会となりました。この実習での貴重な学びを活かして、現場で教員として活躍して行ってくれることを心から願っています。

→ 黒板を使ってクラスの生徒とコミュニケーションをとった例



→ 特別支援教育実習の発表の様子



## 「神奈川県公立学校教員採用試験の説明会開催！」

— 神奈川県教育委員会副主幹 添木博先生をお招きして —



2014年2月22日、本学教室において神奈川県公立学教員採用に関する説明会が開催されました。神奈川県教育委員会教職員課添木先生が来校され、神奈川県の教員採用状況について詳しく説明していただきました。学生の参加者は既卒者一名を含む12名でしたが、全員熱心に耳を傾けていました。

神奈川県は特別支援学校生の急増に伴って、大勢の教員の採用が続いており、志のある人は是非神奈川県の教員を目指して欲しいとの呼びかけがありました。

添木先生は、元々特別支援学校の教員であり、特別支援学校の教員になって良かったこと、この仕事から得られる人生の意義を熱く語られました。特に、通常の学校の教師でなく、障害のある子どもに関わって、この教育でなければ知ることのできない大切なことを多く学ばれたことを、実体験として語られました。

添木先生は、本学の鈴木文治教授が管理職をしていた職場で働いていたこともあり、本学と神奈川県との強い絆を示しています。教職を目指す学生にとって、モチベーションを高める絶好の機会であったと思われます。



↑ 分かりやすく、時に熱く語られる添木先生のご説明の様子

添木先生に学生が質問している様子 ↓



## 卒業生ミニシンポジウム開催される

### —「保育・教職実践演習（幼稚園）」特別授業—



子ども未来学科 4 年生後期の必修科目である「保育・教職実践演習（幼稚園）」授業において、2014 年 12 月 23 日（火）に、保育・福祉の実践現場に就職した本学科卒業生を招いたミニシンポジウムが実施されました。

当日は、1 期生から 4 期生まで、それぞれ、認定こども園・私立幼稚園・認可保育園・障害者支援施設に働く 4 名の卒業生が、科目担当教員の司会進行で、先輩として在學生に是非伝えておきたい保育者としてのそれぞれの職務内容や保育技術、子どもや保護者・利用者の方との間に築かれる関係性、果たすべき役割と責務、そして、現場におけるチームワークなど、多岐にわたって貴重な話を聞くことができました。

とりわけ、日々の保育の中で見せる子ども達の生き生きとした姿や、大人である保育者の予想を超えて展開される子ども達同士の深い思いが現れた瞬間についての具体的なエピソードの数々は、会場で聞いている在學生たちの心を揺さぶるものでした。

既に、保育者としての希望の進路へ巣立とうとしている 4 年生にとって、4 年間の学びの集大成である「実習体験研究報告会」という研究発表を終え、さらに、自分たちにとって身近な卒業生から直接話を聞くことを通して、より一層、保育職・教職への意欲を高める学びになったようでした。一方、卒業生にとっても、大勢の後輩たちの前で、日ごろの職務について語り合う機会を得て、その日々の仕事について振り返り、意識を新たに専門職としての役割や一人一人の子どもや利用者について深く考えることができたようです。互いに数年後のわが身を想像しながら、今できることは何かということに思いをめぐらせ、大学における保育・教職課程の最後のプロセスをじっくりと歩んでくれることを学科教員一同願っています。



図書館 AV ホールにて開催

## 「実習体験研究報告会」への取り組みと成果

### — 4年間の保育・教職課程の集大成 —



子ども未来学科4年生後期の必修科目である「保育・教職実践演習（幼稚園）」の授業において、2014年11月29日（土）に、実習体験研究報告会が実施されました。

実習体験研究報告会は、子ども未来学科における4年間の学びの集大成として、大学の講義や演習などの理論的学習と、実習をはじめとする実践的学習の統合を図ることを目的としています。研究報告会は、3年生有志によって運営され、2,3年生全員と学科全教員とその他の教員が、3つの分科会に分かれて4年生の研究報告を聞きました。

4年生は、科目担当教員の指導の下、本報告会に向けて2ヶ月間研究に取り組んできました。初めに、実習における具体的な体験の中から研究を深めたいと考える自己のテーマを選び出し、関連性のあるテーマに取り組む学生同士でグループを編成しました。次に、メンバー間の議論を経て新たにグループとしてのテーマを設定し、そのグループテーマに即して実践事例を考察・分析し、省察を深めていきました。2度のリハーサルを経て、研究内容をさらに掘り下げ、プレゼンテーションの方法に改善を重ね、当日の発表に臨みました。当日の発表と質疑応答を通じて、4年生には自らのテーマについての思考の深まりが見られ、報告会後の振り返りの授業の中では、グループ間で質の高い質疑応答が行われ、発表時にはなかった気づきも生まれました。一方、2,3年生は、今後の実習に向けた示唆を受け、自分の学びのイメージを獲得することもできたようです。

本報告会に向けた事前の準備と発表、事後の振り返りまでの一連のプロセスの中には、理論的学習としての「子どもへの学び」、実践的学習としての「子どもからの学び」、他者の経験から学びつつ共通の目標に向かっていく「なかまとの学び」という本学カリキュラムの三つの柱として掲げる要素が全て含まれています。本報告会が、学生の4年間の学びの集大成として、実践から学び、理論から学び、他者と協働して学ぶことのできる保育者へと育てていくための土台となるよう、今後も保育者養成の質の向上に取り組んでいきたいと思っています。



3年生の司会者席(手前)から見た会場 ↓



← 分科会での4年生の発表の様子

## 教員免許状一括申請説明会を実施

### — 教員免許の取得に向けて —

今年度卒業を控え、幼稚園教員免許を取得予定の4年生を対象に、第一回の教員免許状一括申請説明会を2015年7月7日(火)、7月9日(木)に、そして第二回の教員免許状一括申請説明会を2015年10月13日(火)、10月20日(木)に実施しました。

卒業年度の学生については神奈川県教育委員会の定めるところに基づいて大学より一括して教員免許の申請を行います。教職課程委員会の職員、教員より申請書の記入方法や記入上の注意等について、細かく説明を行いました。

4年間で最後の実習となる幼稚園教育実習Ⅱを終えて来年度からの就職に向けて実感が湧いてきたこともあり、4年生は真剣に話に耳を傾けていました。

